

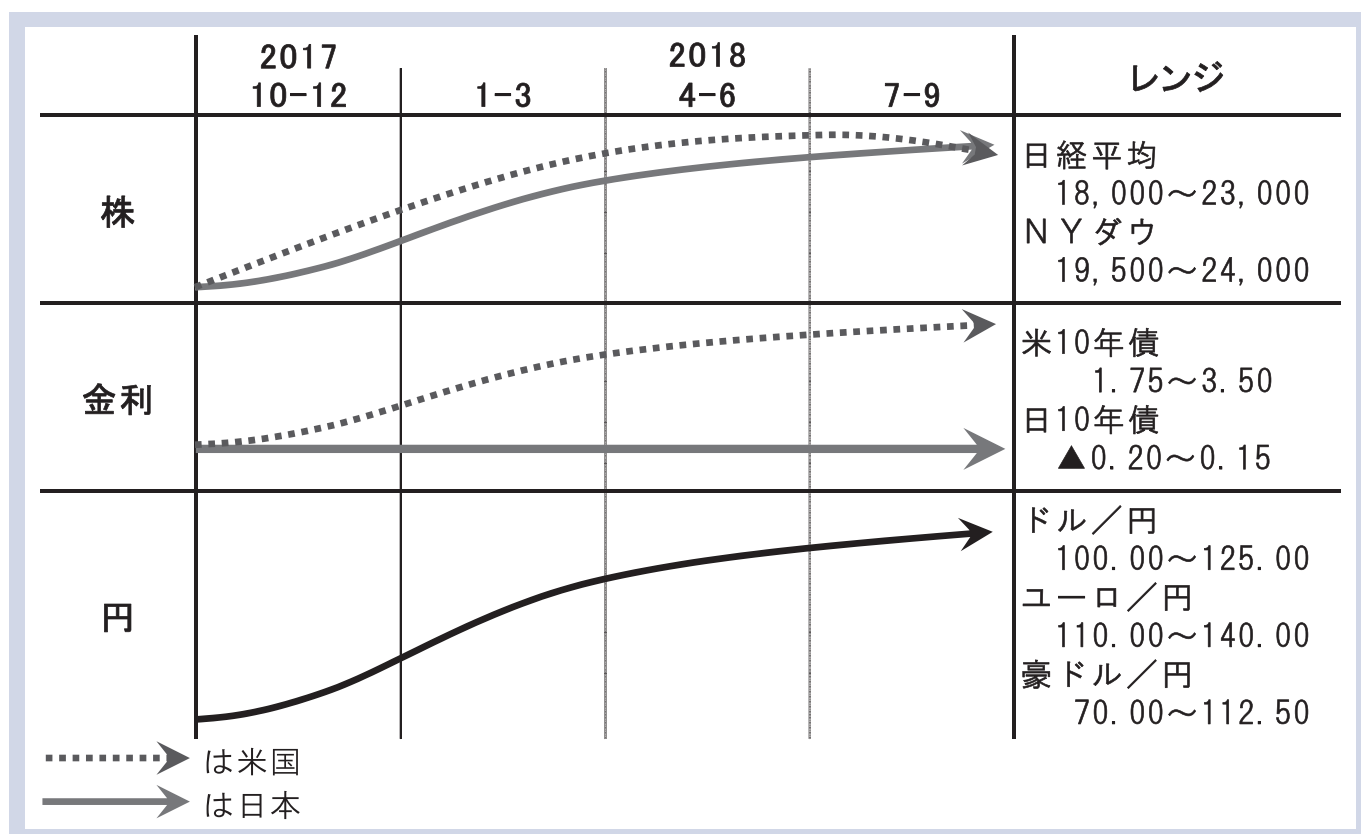
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(10月5日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	世界経済の回復に伴って輸出が増加基調にあることに加え、企業収益の改善を背景として設備投資も持ち直すなど、企業部門主導で景気は好調に推移している。先行きもこうした構図に変化はないとみられ、景気は着実な改善を続ける可能性が高いだろう。
② 米国	米国経済は、トランプ政権による政策の実行が遅れるなか、4-6月期に雇用・所得、資産残高の増加等を背景とした個人消費の再加速等により、景気拡大ペースが再び速まった。年後半はハリケーンの影響で変動が大きくなるものの、均してみれば消費などが牽引する形で緩やかな拡大基調を維持する公算が大きい。景気拡大や労働市場の逼迫が続く中、FRBは緩やかなペースでの利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①世界景気の回復持続、②雇用・所得環境の持ち直し、③企業の投資意欲回復を背景に、堅調な拡大基調を持続する公算が大きい。ただ、今後、ECBが金融緩和の段階的な縮小に向けた検討を開始する可能性が高く、緩和マネー縮小による金融環境の変化や急速なユーロ高進行に注意が必要となろう。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の自律回復の動きを反映して外需を中心に回復が続いており、中国経済の持ち直しも追い風になっている。米国の金融政策の正常化に伴う影響が懸念されるものの、国際金融市場が落ち着いた展開をみせれば、引き続き堅調な資金流入が見込まれ、それに伴って底堅い景気拡大が続くと期待される。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。